



まり子から

安心して生まれ、育ち、暮らせるふるさと生駒をつくろう

新成人、県下2番目の1279人、若い力に期待します！

日本は人口減少、超高齢化という難しい時代を迎えようとしています。生駒市では昨年と比べ67人多い1,279人が成人式を迎えました。小紫市長は成人式で『生駒のまちにずっと関わりを

もってください』と話しました。これまでシニア世代を中心としたさまざまな活動がまちを盛り上げてきました。これからは若者も元気な生駒のまちづくりに加われる施策が必要です。

今年7月から、小中学校・幼稚園でエアコン稼働！

11月の臨時議会ではエアコン設置(583教室)のための事業費約19億円が提示され、承認しました。財源は国からの補助金約3億円、公共施設整備基金からの繰入れ約8億円、市債約6億円に加え、予算の執行見直しや市民からの寄付金など

で賄います。12月には他の市町村に先駆け入札を行い、12月定例議会で業者との契約も承認しました。6月中に設置できる見込みで、過ごしやすい教育環境となりますが、私はこれまでの教育環境への意識不足を反省しています。

市立病院、開院から3年半！

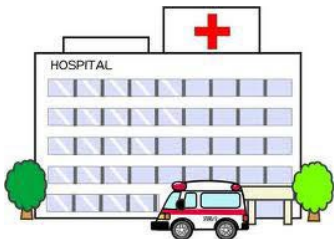
① 平成29年9月から2代目の院長へ

2代目は外科の遠藤医師。初代の今村医師は総長、そしてこれまでどおり産婦人科診療を担われています。遠藤院長は「様々な救急患者に対応できる断らない病院、在宅療養中の方の増悪時にしっかり対応できる面倒見の良い病院、その2つを融合させた病院を目指したい。医師を集めて病院をもっと充実させたい。」と精力的に取り組んでおられます。

② 年間1000件以上の救急患者受入れ

当初計画の実現に向け、医師確保をはじめ注力されている状況ではありますが、開院からたくさんの救急搬送を受入れてきました。救急受入件数は平成27年度(7か月)は1,486件、28年1,769件、29年1,824件、30年(中間)917件。応需率(受入件数÷要請件数)は27年度 82,2%、

28年 83,5%、29年 88,9%、30年(中間) 93,8%と上昇。市内の輪番病院のバックアップ率は平均約50%。



病院の現状

病床数：開院当初 99 床→平成30年 210床 フルオープン
診療科目：27年 14 診療科→30年16 診療科
専門外来：28年6月以降、フットケア外来、男性不妊外来、まぶた外来、アンチエイジング外来、レーザー外来、乳腺・甲状腺外来、小児アレルギー外来新設
分娩件数：開院から 30年 暮れまでに 374 件

救急車を使わずに救急医療を求めて来院される方にも対応しています。今後、医師会入会が実現すればさらに安全安心なまちになると期待します。

③ 災害に強い市立病院、今後期待！

市立病院は免震構造で自家発電など設備も充実、災害時に対応できる施設です。昨年5月には自治会・市民の協力の基、バス事故を想定したトリアージ訓練を実施しました。私も参加、さらなる安全安心のために意見を届けました。

(注) バックアップ率：市内等輪番病院が当日に受入れできなかった件数のうち市立病院が受入れた件数の割合 中間：4月～9月

気づいたことはご意見箱へ：病院の1階ロビーや病棟など4か所にご意見箱が置かれています。気が付いたことは悪いことも良いこともご意見箱に届けてください。病院以外の所で話されても病院は良くなりません。“ありがとう”は医療従事者の栄養源、“ありがとう”に繋がれば病院は育ちます。

市議会議員伊木まり子 市政報告会

日時：3月2日(土) 15-16時半
会場：セイセイビル 401 会議室

みなさんお越しください。

生駒市議会 3月定例議会 会期日程(案)

会期：3月5日～25日

2/25 13時から議案説明会(傍聴にお越し下さい)
2/28 10時からの議会運営委員会で日程が決まります。

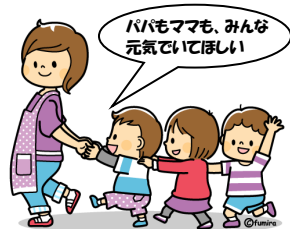
平成29年3月 がん検診、受診率アップを！

がんは2人に1人が罹る病気、早期に見つければ治るがんも増えました。また、治療を受けながら学業・仕事を続ける患者さんも増えていきます。私は一人でも多くの方が受診し、早期発見早期治療に繋がるような取組の実現、若い世代や働き盛りなどの受診も増えるような取組を求めました。

平成29年12月

虐待が起こらないように！

平成28年4月に起きた2歳児死亡事案、県と市は独自に検証し報告書を作成。課題は何か、提案された再発防止策は実施できているのか、確認し、再発防止の徹底を求めました。



平成30年6月 在宅医療・介護、熱中症について

国は入院を減らし在宅での医療や介護にシフトしていこうとしています。病院から在宅へ、という国の方針を知っておかないとその事態に直面した時困ります。在宅医療・介護サービス

の利用の仕方などをしっかり市民に知らせるよう要望しました。熱中症については冷水機の導入や児童生徒が教師に不調を訴えやすい環境づくりを要望しました。

平成30年12月

命を守るためにACPの周知と活用を！

成人となる20歳、介護保険とかかわりが始まる40歳、高齢者の仲間入りをする65歳など、節目の時に自身や家族の健康や病気のことを話し合う機会を持つようになれば健康づくり、早世の予防に繋がると期待します。ACPの周知を！

ACP (Advance Care Planning)

本人を中心に家族、医療や介護の専門職が治療方針を話し合うこと、健康な時から人生の最終段階における医療や介護について話し合うこと。厚労省はACPの愛称を募集、昨年11月30日「人生会議」と決定しました。

市民主体のまちづくりを！

平成30年4月から廃止された“ききみみポスト”は市民が声を届ける大切なツール、再開の検討を！ 大きな自治会に属さない自治組織の活動を支える補助金の検討を！

伊木からの説明

議員定数について

平成30年4月臨時議会では議員定数を現行の24人から22人に改正するよう求める直接請求を受け、市長は2人減らす議案を提案しました。これに対し議会は特別委員会を設置し、請求者や学識者から意見を聴取、他市の状況や法律との関係を調査、パブリックコメントの実施や市民懇談会開催を経て協議した後、9月定例議会で採決、私は削減に反対、議会も削減提案を否決しました。

私は現在3期目です。12年近く議員を務める中で、私が1議員として担う大切な仕事は議案審査と政策提案と考えるようになりました。生駒市議会では行政の様々な分野について4つの委員会で調査し審査します。委員会がうまく機能するためにはある学識者は1委員会6人以上、別の方は最低でも7人の委員が必要としています。私は市政について4つの委員会で分担して調査・審査する現状が適切と考えます。また、様々な人材がいて様々な角度から審査や提案を行えば市政の発展に繋がると考えます。定数が少なすぎると少数意見が届かなくなります。そのような理由から24人が適切と考えています。

生駒市立病院について

① 市立病院への赤字補てんが心配！?

病院を運営したことがない生駒市が自前で運営した場合、多くの自治体病院と同様に大きな累積赤字を抱え市の財政を圧迫するので“運営はノウハウのある医療機関に独立採算で任せる”という契約で医療法人徳洲会が運営しています。市からの赤字補てんはありません。生駒市は病院建設のために借金（起債や基金からの繰入など）をしましたが、この借金の返済には平成31年度以降、毎年徳洲会が市に納める指定管理者負担金（建物の減価償却費相当額）を充てます。返済は2034年に完了、以後は将来のための蓄えもできる計画です。

② 市立病院 管理運営協議会とは？

年3回開催される協議会、この協議会では自治会代表者3人、公募市民3人、医療関係者2人が市長(会長)、市立病院長(副会長)と同じテーブルに着き、公開の場で意見を交換し、病院事業を評価し、次の計画に反映していきます。これまでに10回開催。市立病院は市民の力で発展させていくことができる病院です。

このニュースの発行・お届けに係る費用は政務活動費から支出しています。

編集後記：平成29年度は在宅医療・看取り・介護など、病院以外のテーマにも取り組みました。たくさん報告させて頂いたのですが、昨年1月末に弟が急死、29年度はニュースをお届けできませんでした。30年度初回の報告となりました。まり子